

テント一週一文(も)—— 西山進さん『漫画しんぶん』 その他

(承前)

テント前の会話 4-1: 2回目の署名?

エネルギー官庁のパブコメ募集には微塵も配慮すべきではないと主張する若い方(以下「若」さん)は、テント前の賛同者ノートや催し物のチラシなどを乗せている机の上を見苦しくなく揃えている女の人(以下「机」さん)に対して、テントの中から声をかけます。

若：机さ～ん。

机：ハ～イ。

若：先ほどあなたが買物に行っている間に、賛同者ノートに記名していただいた人がいらっしゃるんですよ。

机：アラ、よかったわ。

若：その方がですね、自分は2回目かもしれない、とおっしゃるんですよ。

机：テント7周年記念九電弾劾集会が終って、テントも8年目ですからね。ずいぶん前に賛同していただいていたのかもしれない。

若：賛同者ノートに2回記名してもいいんですかね。

机：いいか悪いかと聞かれたら困るけど、仕方ないんじゃない。

若：2回記名される方はいますかね。

机：います、います。3回書いた方もいらっしゃいますよ。

若：1年目と3年目と5年目の節目ごとに?

机：そうじゃないの。テント内には訪問者ノートがあるでしょう。あなたもう書いてくれた?

若：いえ、まだ書いていません。

机：書いておいてほしいわ～。でね、テントの趣旨に賛同していただける方にはテント前のこの賛同者ノートに記名していただくでしょう、「こんにちは」とテントに入って来た人はテント内の訪問者ノートに記名していただくのよ。

若：分りますよ。

机：ところがそれを分っていただけない方がいるのよ。近頃は来ていないか……な～。ア、あった、あった。ほら、この方よ。

若：Y……さん?

机：そう、この方は時々テントに来るのよ。来る時はいつも差し入れを持ってね。

若：いつもですか。

机：そう、いつも。それは楽しみなんだけど、このY……さんはね、名前を書いておいてね、と言うと必ず賛同者ノートに書くのよ。訪問者ノートを差し出して、ここに書いておいてね、と言うとちゃんと訪問者ノートに書いてくれるのよ。

若：どちらに書いても構わない、自分が来たことが分ればいい、というおつもりなのでしょうね、きっと。

机：そうだと思うわ。

テント前の会話 4-2：太陽光でもう元は取ったから九電に何でも言うよ

若：それですね。

机：まだあるの？

若：その「2度目かな？」の方が、記名し終わると「あっ～すっきりした」とおっしゃったのです。

机：心から賛同したかったのでしょうかね。

若：それもあるでしょうが、やっと踏み切れたっている感じですね。

机：えっ？ だって2回目でしょう？

若：どうもですね、1回目は記名したかどうか不確か、というの長い間賛同したいと思っていたので「いや、もう賛同したかな」になってしまっていたかもしれない、とおっしゃるのです。

机：何か複雑な記名の経緯ですね。

若：そうなんです、**「あっ～すっきりした」**の理由も、きっと心理的な負担からの解放なんですよ。

机：ご自分でそうおっしゃったくらいですから、賛同したいと思っていた、やっと記名した、という解放感だったのでしょうかね。

若：いや、そうじゃなくて、電力会社に心理的な負担を感じていて、それから解放されたっていう意味らしいんですよ。

机：えっ、おっしゃっている意味がよく分らないけど、あなたもその方といろいろお話したのね。

若：その方も気が軽くなったから話したんじゃないでしょうか。

机：その、電力会社に心理的な負担を感じていた、って九電の社員だった方？

若：私もそう思ったんですよ。そうじゃなくて、ソーラ発電の電力を売電しているんですって。

机：それだけなのに電力会社に負い目を感じていたの？

若：賛同者になったことが知られたら買ってくれなくなるかも知れない、とって不安だったそうなんですよ。

机：そういうこと！でも、今になってどうして心理的負担がなくなったんでしょうね？

若：それが面白いんですよ。ソーラ発電の初期費用、元手ね、これは売電で取り戻したんですって。もう負債は残っていないので、今からはぼちぼち売ればいい、だから九電に名前が知られてもいい、と晴れて賛同者になったって言うのよ。

机：初期費用とか負債とか言うわけですから、個人住宅の屋根の上にソーラを置いている規模じゃないのね。相当大きな施設を持って発電、売電しているんでしょうね。

若：そうでもなさそうでしたよ。自分の畑を活用しているって言っていましたから、そんなに大きな施設じゃないと思いますよ。

机：ソーラで発電、売電しているんだったら直ぐでも脱原発に賛同して記名してもよそさそうに思うけど、直線的にはいかないのね。

若：脱原発サンセ～イに記名するまでには、各人の中で外からは見えない葛藤があるんですね～。

机：先ほどはそれを垣間見たわけね。

若：そうなんです。その葛藤を超えて、4000名？現在の賛同者は何名ですか？

机：4430名。

若：先ほどのY……さんのように、2回も3回も書いた方もいらっしゃるかもしれないから、4400名として、この方々が葛藤を超えて賛同記名してくれたわけですね。

机：しかも、ここは九電本店の正面玄関前ですから、集会なんかでの署名とはレベルの違う葛藤があるかもしれないわね。

若：でもですね、分らないことがあるんですよ。

机：そうでしょう！私も分らないわ。ここに賛同したら、それがどうして九電に知られるって思うのかってことでしょう。

若：そうなんです。今の日本はそこまで監視されていると思っているんでしょうかね～。

机：脱原発に賛同する人々がそのように用心深くなると心配ね。アラ、「自」さんが来たわ。

西山進さんの「漫画しんぶん」

「自」さんというのは前と後ろに脱原発のゼッケンを付けて自転車でテントに手伝いに来てくれる男の方のことです。

机+若：こんにちは。

自：ハイこんにちは。漕いで来ると少し汗ばむね。今日は見せるものがあったね… バッグに入れていたはずなんだが。あつた、あつた。これなんです。

机：西山進さんの「漫画しんぶん」ね。前にも紹介していたでしょう。

自：これで5回目ですね。前のは、次の4回になります。

「テント一週一文（ゆ）」 http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/180409kuriyama.pdf

「テント一週一文（ら）」 http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/171201kuriyama.pdf

「テント一週一文（た）」 http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/170904kuriyama.pdf

「テント一週一文（に）」 http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/170612kuriyama.pdf

自：今日は3枚あるんですけど、1枚は「漫画しんぶん」で、もう1枚は今年の被団協で配布した資料。この2枚とも、今までの西山さんの作品とは少し雰囲気異なっていると思いませんか。

若：どう違いますかね？

自：絵が多いんですよ。西山さん、伝えたいことが一杯あるのでしょね。

机：なるほどね。

若：テントの九電側の面とか、テント宣伝用車のフロントに張っている幕とかに西山さんの絵を使っているでしょう。子どもとお母さんの絵が優しくていいね。絵と一緒に書かれている文字は、西山さんの字じゃないんですか？

自：字もそうですよ。

若：自さん。

自：ハイ。

若：自さんはさっき3枚持って来たとおっしゃいませんでした？ ここにはB4の絵しんぶんが2枚しかないんですけど……。1枚まだ隠しているんでしょう。文章ばかりのしんぶんとか。

自：いえいえ、隠してはいませんよ。ホラ、その新聞の上に乗っているじゃないですか。

若：これはハガキですよ。

自：そうそう、しんぶんと一緒に私のところに送ってくれたのですよ。自転車で来ている私へのエールですね。

机：本当だ。自さんのゼッケンの代わりに「原発ゼロ」の旗を描いてくれているんだ。

自：そうなんです。それでですね、このハガキも一緒に皆さんに見ていただくかと思うのですが、いいですかね？

机：よって件の如く許可す。

自：どうも、どうも。

と、テントの外での会話が続いていました。

(文責 栗山次郎)

2018年5月21日公開

参照：西山進さんの「漫画しんぶん」No.203 + 「私たちの足跡 被団協 63 回定期総
会基調報告資料」+ 5月中旬の私信
http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/nisiyama203.pdf